

今回はCALISの日本語目録を検討するための会議にお招きいただき、ありがとうございます。

本日は、皆さんにこれから使っていただけるものと思います私どものNACISIS-CATについて紹介させていただきます。

NACISIS-CATは、国立情報学研究所の前身である学術情報センターのそのまた前身の時代、16年程前にスタートしました。現在約800に機関が参加しており、共同分担方式で総合目録データベースを形成しています。目録には図書と雑誌がありますが、このうち図書については、書誌が約480万件、所蔵が4,870万件作成されており、所蔵は一日約3万件増加し続けています。今や日本の大学図書館にとってなくてはならないものとなっているといえます。

しかし、このように現在は順調に運用されているNACISIS-CATですが、スタート当時は軌道に乗るまでに多くの時間を要しています。最初の所蔵100万件に達するのに3年かかっています。現在では30日と少々で達成できる数字ですが、最初は共同分担方式といってもほとんど全ての書誌を新規に作成する必要があり、なかなか数字が増えませんでした。この時期を乗り越えたことが現在の利用数に繋がったといえます。CALISの日本語目録も、これからスタートということで最初は大変なことと思いますが、是非その時期を乗り越えていただきたいと思います。

さて、NACISIS-CATはスタート以来現状を維持してきたわけではなく、より使えるシステムにするための改造を続けています。現在は、システムの対応としては、2つの方向で改造しています。一つはオンラインジャーナルをはじめとするネットワーク上の情報源への対応です。もう一つが多言語環境への対応で、サーバ内部はすでにUNICODEになっています。この多言語対応が、CALISによるNACISIS-CAT利用への道を拓いたことを、非常にうれしく思っています。

NACISIS-CATの正式な目標にすることはできませんが、担当者が密かに思っていることがあります。それは、世界における日本語図書の総合目録がいつか実現できないものか、ということです。海外においては、すでに英国でオックスフォードやケンブリッジをはじめとする大学が参加して、

NACSI S-CATを使った日本語総合目録作成事業が進んでおり、10万件以上のデータが登録され、ほぼ初期の目的を達成しています。今回、中国の大学でもNACSI S-CATの利用が始まるということで、世界総合目録へ少し前進できたのではないかと考えています。

最後になりますが、CALISによるNACSI S-CATの利用が、CALISとNACSI S-CATの双方にとって有益なものとなり、CALISの今後の発展を祈念して挨拶とさせていただきます。